

### 3 レポーターからの画像鑑定依頼 がぞうかんていいらい

このページでは、みなさんの生き物調査の参考になるよう、令和3年度中にレポーターの方から質問（写真つき）や現物の提供があった生き物と、その鑑定結果について掲載しています。今年もたくさんのご質問をいただきました。レポーターの皆さん、ご回答いただいた検討委員の皆さん、ありがとうございました。

#### 【鳥】

#### オシドリ

写真はメス。かつては江川町や岩井山の西側

に短期間いたことがあ

ったが、大木がなく営業できるところがないため居付かなかった。足利市で見られるのは珍しく、もし住み着くようなことがあれば大ニュースである。

オスは見た目が鮮やかでとても目立つ。



#### サンショウクイ

スリムなフォルムからサンショウクイと鑑定

した。5月末に見られた

とのことで、渡りの途中で寄ったものと思われる。足利市ではほとんど見られなくなってしまった。「サンショウクイ（山椒食い）」という名前は、ピリリ、ピリリという鳴き声が「山椒は小粒でもピリリと辛い」ということわざを連想させることが由来となっている。



#### ノスリ

トビより一回り小型の猛禽類。林で暮らし、農耕地・草原などの開けた環境でネズミ・モグラ類などの狩りを行う。写真の鳥は羽の色などから幼鳥か若鳥ではないかと思われる。電柱の上や杭の上などに止まっているとよく見ることができる。



しょくぶつ  
【植物】

アキノタムラソウ

のほら みちばた ふうとう み  
野原や道端に普通に見  
られるシソ科の多年  
草。草丈は約20~60  
cm。茎はシソ科特有の  
しかくけい  
四角形で、まっすぐに  
のびる。あき ながつい  
ているが、花は梅雨の頃から咲き始め、11月頃  
まで花期が続く。淡い紫色の唇形花をつけ、  
まれに白色の花もある。日本原産の植物。



イボタノキ

モクセイ科の落葉  
低木。高さは約2~  
4m。日本各地の山野  
の林縁に自生する。花期は5~6月で、ラッ  
パの形をした白い小さな花を密集して咲  
かせる。丈夫で細かい枝を密に付けるので、  
いげがき しょくさい  
生垣として植栽するのに適している。



マルバアオダモ

モクセイ科の落葉高木。高さは約5~15m。白当たりのよい山野・平地に  
ひろく自生する。花期は4~5月で、白く細い花びらの花を多数咲かせる。  
かしつ  
果実は2~3cmの翼果※となる。



※翼果・・・果皮の一部が平らな翼の生えたような形状に発達した果実。

こんちゅう  
【昆虫】

アカボシゴマダラ  
(春型)

各地で急速に増えて  
いる外来種。夏型はう  
しろほね ふち あか もんが  
しろ翅の縁に赤い紋が  
あるが、春型には無く別のチョウのような感じ  
である。足利市の平地から山の縁を中心に非常  
におお  
に多い。幼虫はエノキを食べる。



アサマイチモンジ

ようちゅう  
幼虫はスイカズラな  
どを食べる。足利市に  
は広く生息しよく見ら  
れるチョウ。



## エサキオサムシ

ほっかいどうからほんしゅうちゅうぶ  
北海道から本州の中部  
にかけて分布するクロ

オサムシの亜種※。

あしかがしではさんちぜんいきせいそくおおやかんかつどう  
足利市では山地全域に生息が多い。夜間に活動  
するが、昼間でも山道を這っているものをしば  
しば目撃できる。うしろ翅が退化して飛べない。

おお  
大きさ20~23mm。栃木県の東半分の山地に  
は亜種ツクバクロオサムシが生息するが、区別  
は非常に難しい。



## オオトラフ ハナムグリ

オオトラフコガネと  
も。大きさ12~16mm。

6~8月に現れる。花

や葉上にもいる。幼虫は朽木を食べて育ち、  
成虫は花粉を食べる。足利市では山地で見られ  
るがあまり多くない。



## オトシブミ(揺籃)?

かきはま  
柿の葉を巻いたものが  
あったとのことで鑑定  
を依頼された。甲虫の



なかま  
仲間のオトシブミの揺籃(葉を巻いて中に卵を  
産む)か、ハマキガ(蛾の仲間)のどちらかと思  
って調べたが合致するものがなく、葉の中身を  
調べれば何であるのかハッキリするのではない  
かとお返事をした。

## オナガサナエ

ようちゆう  
幼虫(ヤゴ)は河川の  
上~中流にかけて  
生息。成虫の大きさ



60mm前後。あまり多くない。渡良瀬川でも時々  
目撃される。

## カネタタキ

しゃしん  
写真はメス。大きさ7~  
11mm。林の縁や人家  
の生け垣などで見られ



る。足利市では広く生息し、多い。小さな声でチ  
ン・チン——と鳴く。市街地にも多い。

## キアゲハ(幼虫)

ようちゆう  
幼虫はセリの仲間の  
ニンジンやパセリ、セ  
リなどを食べる。  
足利市全域でよく見か  
ける。



※亜種…同じ種類のなかで、地理的な隔離により集団として違いが認められるもの。

## クマバチ

おおきさ約23 mmと大型

で、ずんぐりした体形。

繁殖期のオスは、縄張



りをつくり、ホバリングしている姿をよく見かける。足利市では平地から山地にかけてよく見られ、日の当たる山道でホバリングしている姿をよく見かける。花にもよく集まる。

## クロヤマアリの女王？

クモのような不思議な動きをしているとのこ

とで、動画とともに

鑑定依頼があった。お尻から糸を出したのであ

ればアリグモと思われるが、大きさや動画での

動き方、形態からクロヤマアリの女王ではない

かとお答えした。



## コクワガタ

おおきさ20~50 mmくら

いで、大きさに幅があ

る。成虫は2~3年生

きることがあり、冬でも朽木に成虫を見ることが

ができる。足利市では平地~山地にかけて見ら

れ、最もよく見ることができクワガタムシ。



## ゴマフカミキリ

おおきさ10~15 mmほ

ど。成虫は5~10月に

現れる。幼虫は各種

広葉樹および針葉樹を加害する。

足利市ではおもに山地に住み、おもに枯れ木で

見られる。



## コムスジ

幼虫はマメの仲間や

ハルニレを食べる。

足利市には広く生息し

かなり普通に見られる。



## コロギス(幼虫)

冬に撮影した。幼虫で

冬を越す。成虫は大き

さ30 mmほどで夏に現

れ樹上で生活する。足利市では山地に広く生息

し少なくはないが、樹の下に逆さにした傘や布

などで受けて棒でたたく方法(ピーティング)

を行うと見つけることができる。



## サトキマダラヒカゲ

幼虫はイネの仲間のメ

ダケなどを食べる。樹液

にもよく集まる。足利市

全域に分布し個体数も多い。北部山地を中心に

よく似たヤマキマダラヒカゲが生息する。



### ◀コロギス

メスの成虫

(大川検討委員

提供)

## ジャコウアゲハ

河川敷を中心に生息する。幼虫はウマノズクサを食べる。渡良瀬川ではよく見られ、黒いアゲハを見たらジャコウアゲハと認めていい。



## ダビドサナエ

成虫の大きさ 40～50 mm。河川の上～中流域にかけて生息。足利市では北部山地を中心に生息する。かつては個体数は多かったが最近ではあまり見られない。



## トビイロトラガ (幼虫)

終齢幼虫の大きさは 40 mm ほど。幼虫はツタ、ヤブカラシ、ブドウなどを食べる。人里の蟻で、足利市における生息状況は把握していないが普通に見られるものと思われる。



## トンボエダシャク

翅を広げた大きさは 47～58 mm。幼虫はツルウメモドキを食べる。昼間活動する蛾。足利市における生息状況は把握していないが、全域に普通に見られるものと思われる。



## ナガニジゴミムシダマシ

写真はつがい。大きさは 10～15 mm。カラワタケなどのキノコが生えた朽木に集まり、キノコを食べる。美しい虹色の光沢を持っている。足利市では平地から山地にかけて見られる。朽木に生えるカワラタケなどを目安に探すと見ることができる。ゴミムシダマシは甲虫の大きなグループ(科)で鳥の餌のミルワームはこの仲間。



## ニホンカワトンボ

大きさは 60 mm 前後。水辺を好む植物が多いきれいな川に生息する。足利市では北部山地を中心に生息する。かつては個体数は多かったが最近ではあまり見られない。写真のように褐色型(写真上)と透明型(写真下)がいる。



## ヒメジャノメ

幼虫はイネやカヤツリグサの仲間を食べる。足利市では開けた環境に多い。



## ヒラタクワガタ

おお  
大きさ 20~100 mmほ  
どで、大きさに幅があ  
る。成虫は 1~3年生  
きる。足利市では平地~平地に面した山沿いの  
雑木林に生息しているものと思われるが、少な  
い。栃木県の絶滅危惧種で生息地は開発の影響  
を受けやすい。写真の個体は平地のクヌギの  
大木で得られたもの。



## フタトガリコヤガ (赤紋型)

あかもんがた  
しゅうれいようちゅう おお  
終齢幼虫の大きさ  
35~40 mm。幼虫は  
かくしよくぶつ かがい  
各種植物を加害する。  
しゃしん  
写真のものはオクラを  
た  
食べていたとのこと。  
ようちゅう あかもんがた  
幼虫には赤紋型と  
くろもんがた  
黒紋型があり、黒紋型  
とはずいぶん雰囲気異なる。上の写真は若齢  
ようちゅう した しゅうれいようちゅう  
幼虫、下は終齢幼虫。



## マダラスズ

おお  
大きさ 7 mm前後。明るい  
くさち らち す  
草地や裸地に住み、  
しがいち ふつう み  
市街地にも普通に見ら  
れる。足利市では全域に  
み おお  
見られ多い。ジー・ジー  
とくきって なく。  
と区切って鳴く。



## マユタテアカネ

おお  
大きさ 35 mm前後。  
ようちゅう へいち さんち  
幼虫は平地から山地  
にかけての水たまりな  
せいそく あしかがし  
どに生息する。足利市ではアキアカネに次いで  
よく見られる。額の部分に名前の由来となった  
まゆじょう もん  
眉状の紋がある。



## マルウンカ

おお  
大きさ 5.5~6 mmほど。  
いっけん に  
一見テントウムシに似  
るがセミやウンカの  
しんせき すばや と は  
親戚。素早く飛び跳ねる。植物の葉上で生活  
し、あしかがし ひじょう おお しきさいへんい いちじる  
足利市では非常に多い。色彩変異が著  
しい。



## マルガタゴミムシ

おお  
大きさ 7.5~10 mm。  
あか くさち らち す  
明るい草地や裸地に住  
む。  
あしかがし わたらせがわ かわら はたち こうえん  
足利市では渡良瀬川のような河原や畑地・公園  
などで見られ多い。這っているのをよく見ること  
ができる。



## ユミアシオオゴミムシダマシ

おお  
大きさ 21~28 mm。  
せいちゅう ようちゅう と くちき おんだんか ほくじょうちゅう こんちゅう  
成虫・幼虫ともに朽木にいる。温暖化で北上中の昆虫のよう足利市  
では 2010年頃からみられるようになった。いまのところ平地から山沿  
いに見られるが、より奥の山地に分布拡大するか観察の継続が必要である。



蛾の一種

写真の虫はミミズク（こういう虫がいる！）ですかという質問があり、蛾の仲間のツツガの一種だろうと答えた。ほかにヤガの一種（蛾）の可能性



がある。

本当のミミズクは左の写真でセミやウンカなどの親類。大きさは5mm前後で足利市には山地に普通に見られる。コミミズクというのもいて普通に見られる。

◀ミミズク（大川検討委員提供）



【その他（クモ）】

アシダカグモ

大きさは10～30mmほど。建物のなかに住みゴキブリなどを食べる。外来種で1878年に長崎県で初めて報告されたと言われている。足利市の詳しい生息状況は不明。



名前がわからない  
生き物を見つけたら？



市環境政策課にご質問をお寄せください！  
検討委員の先生方に鑑定していただき、  
回答します。  
あなたの質問が貴重な発見につながるかも？

質問のしかた

次のことに気を付けてよく観察してください。

- ①いつ
- ②どこで
- ③大きさ
- ④色
- ⑤鳴き声、飛び方などの特徴

市環境政策課にメール・手紙・電話等でこれらの情報とともにご質問をお寄せください。  
(連絡先は裏表紙の裏側をご確認ください。)



写真があるとより鑑定しやすいので可能な場合は撮影し、写真も一緒にお送りください。

※お寄せいただいた写真は、報告書の表紙等に掲載させていただく場合がございますので、ご了承ください。